

## ちいさな証

## 用意されていた生きる希望と目的

深井愛記音

スイス日本語福音キリスト教会会員

今回、小さな証を書かせて頂く機会を得ました。こうしてもう一度過去の自分と向き合い、主の前に告白する機会が与えられて、心から感謝しております。

私は福岡県のノンクリスチャンの家庭に生まれ、音楽家で教育熱心な両親のもとで育ちました。地元のキリスト教会付属の幼稚園に通ったことで、物心つく頃には聖書の神さまやイエスさまについての知識がありました。私は幼稚園で習った神さまに毎晩お祈りをし、心から信じていましたが、日々の様々な出来事の中で、次第に神さまの存在を忘れて行きました。

私は幼少期から、生きる意味や自分自身の価値について悩んでいました。人生に対する諦めと不満に満ちて、投げやりな気持ちは募る一方でした。なんと無く続いていたリコーダーで東京の芸術大学に入学してからは親元を離れ、周囲に合わせて明るく振る舞い、気を紛らわせていました。しかし、自分の存在価値についての悩みや、過去のトラウマは心の中に巣食い、それに苦しめられていました。

ある日、クリスチャンの同僚に自分の悩みを話したことをきっかけに、私なりに神さまを求めはじめました。しかし、自己中心的にしか神さまを捉えられなかった私は、自分を変えようともがくうちに暗がりになり落ちて行きました。今では、主はこれらを通して私を訓練し、導いて下さっていたのだと確信しています。

大学院に進み、紆余曲折を経て当初全く計画していなかったバーゼルの音楽院への留学の道が開かれました。勉強したい一心でスイスへ渡り、そこでの生活が始まりました。今思えば、バーゼルには家庭集会もあり、チューリッヒには日本語教会もあったのに1年間、そのどちらにも行くことはありませんでした。そうこうするうちに日本の大学院を卒業するために半年一時帰国をするこになりました。

帰国した私に、神さまに依り頼むしかないと思わせる決定的な出来事が起こりました。人間の努力では変えようのないものがあり、それに対して完全に無力であると身をもって思い知らされたのです。何日も声を上げて泣きました。そしてある時何気なく開いた聖書のある箇所が目にとまりました。

あなたは、わたしの内蔵を造り母の胎内でわたしを組み立てて下さった。…胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。  
…詩篇139篇 13, 16節

神さまは一人一人をご計画をもって創造されました。涙を流して読んだこの詩篇139篇を通して、最初から私は神さまの手の中で造られ、同時に全て知られていて、ずっと見守られていたのだとわかったのです。

こんなに弱く、どうしようもなく醜い自分を受け入れられなくても、主は傲慢でわがままな私を時間をかけて砕き、そして溢れるばかりの恵みを与えて下さいました。

日本での大学院を修了しバーゼルに戻ると、今まで停滞していたものが一気に動き出しました。ある日本人の先輩がクリスチャンになったことを知り、その変わりように衝撃を受けたことをきっかけに、私は洗礼を受ける決心をしました。

同じ音楽院のクリスチャンの友人の導きで、マイヤー先生を始め、教会に集う人々、そして様々な国のクリスチャンとの交わりが与えられ、信仰が強められてゆきました。そして、先生との学びを通して、次第にイエスさまの十字架の意味を理解するようになりました。神さまから目を離し、好き勝手に生きて

きたのに、聖書の「罪人」という言葉に嫌悪感を抱き、神さまがいるならなぜ？と傲慢に振る舞う姿は、まさしく私の「罪」そのものでした。そんな私のために、神さまは独り子であるイエスさまを送られるほど、愛しておられるということを知りました。そして、イエスさまは私のために全てを贖って下さいました。

いつ滅んでもおかしくない、真っ暗闇の中にキリストという光が差し込み、私は導かれました。そして、その先に生きる希望と目的がはっきりと用意されていたのです。

ついに、最初に神さまを信じたいと願った時から7年の歳月を経て、昨年11月にマイヤー先生に洗礼を授けて頂きました。この弱い私の心に与えられた、聖霊のともじびは永遠に消えることのない、確かなものだと思っています。そして、主にある仲間との出会いが次々に与えられるたびに、何とも言えない生きる喜びと希望、そして感謝が湧き上がってきます。

こうして救われた私ですが、これからも時として神さまを忘れ、道を外れてしまうことがあるかも知れません。しかし、主にあってキリストに似たものとされるように日々祈り、同時に仲間や他の人々のためにも祈り、主に応えて行きたいと思っています。

これまでにとくさんの方々のお祈りと励ましに支えられて、導かれて来ました。心から感謝致します。



JEGクリスマス礼拝でソプラノ・佐藤裕希恵姉の歌曲を伴奏する。

